

牛久：学校周辺に見る自然

第76号 ひたち野西近隣公園

2012年3月25日発行

< 冬の水辺公園 ～5. 鳥、その後 >

まぼろしの「冬の水辺公園」シリーズ。今回は、冬の鳥。水辺公園での冬の野鳥観察については、62～65号で詳しく紹介したので、その後新たに見られたものだけ、ここで追加しておこうと思います。



冬鳥のマガモのおす（左）とツグミ（右）。アヒルは、マガモを改良して生まれた。

まずは、冬鳥2種。左はマガモのおす。飼育されるアヒルはマガモを改良して生まれたのだそうで、マガモによく似たアヒルが飼われていたり野生化していたりすることもあるそうです。昼間は休息していて、夕方になると草の種子を食べるとのことです。水辺公園で見かける時は、いつもヨシやヒメガマの茂みの中に、コガモやカルガモなどと一緒にかくれています。

右はツグミ。何度も見ているのですが、写真にはとっていませんでした。地上を歩きながら、地面をつついてミミズや昆虫を食べるのをよく見かけますが、木の実なども食べるそうです。



左はゴイサギの幼鳥で、羽の斑紋から「ホシゴイ」ともよべれます。はじめ茂みに違和感を感じ、じ〜っと見てもゴミか何かが引っかかっているようにしか見えなかったのですが、さらにカメラのレンズで大きくして見て、ゴイサギと分かりました。すっかり背景にとけこんでいて、今までいても気がつかなかったのかもしれないなと思いました。ゴイサギは留鳥で、主に早朝や夕方に、魚やザリガニ、カエルなどを食べて暮らしています。

背景にとけこんで見つけにくいゴイサギの幼鳥（左）とその拡大（右）



最後におまけで、カモの飛んでいる姿。オカヨシガモとコガモの群れが飛び立ったところを写しました。飛んで羽を広げている時のもようも、種類を見分けるのに役立ちます。その年の気温や、えさの量で、冬鳥がみられる期間も違うようですが、今年はどうでしょうね。【理科支援員 宮内】
オカヨシガモとコガモの飛翔。